

i 教養教育科目の学び方

新入生のみなさん、ここでいきなり問題です！ 以下の5問を○×で答えよ！

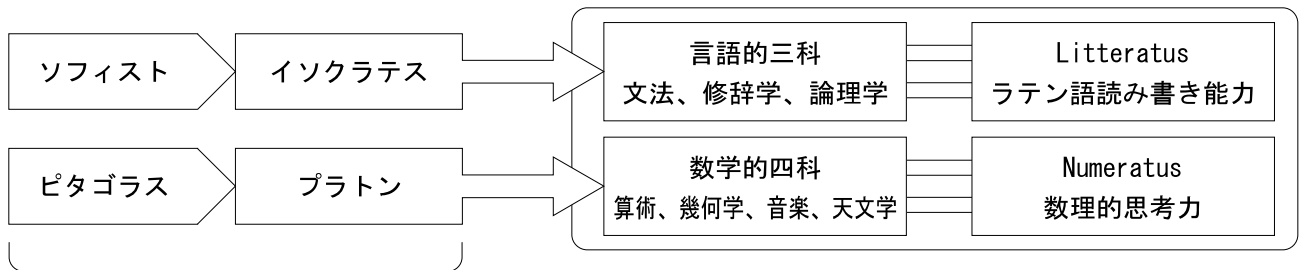
- Q 1. ずっと使ってきた日本語、このままで十分通用する。
 Q 2. 受験英語で高得点取れば、外国人と会話できる。
 Q 3. 数学ができなくても、社会人になって困ることはない。
 Q 4. 英会話が流暢にできれば、グローバル人材になれる。
 Q 5. 様々な科目を幅広く学べば、教養豊かな人間になれる。

以上の5問、正解はすべて「×」。いずれも大間違い。こうした思い違いを改めるべく、経済学部では2014年度より教養教育科目を大々的にリニューアルしました。

Q 1～Q 4については、「日本語リテラシー科目」、「外国語科目」、「言語系科目」、そして「数理系科目」で、以下の3つの能力を鍛えることとなります。またQ 5は、教養教育とは「専門バカになるのを避けるため、より広く様々な科目を学ぶもの」という考えが広まってしまったことによる、誤解です。今の世の中、1つの問題が複数の学問にまたがることは当然。こうした学際的な感覚が鋭くなるように、さらには複数の「ものの見方」を身につけるために、「一般教養科目」が用意されています。

- ☆Literacy (日本語と英語の聴き・読み・書き・話す力)
 ☆Numeracy (数理的思考力、計算・測定・論証力)
 ☆Global Thinking (地球規模での思考力)

教養教育への理解を深めるために、その原点に立ち返ってみましょう。12世紀頃からヨーロッパ各地に誕生した大学では、神学、法学、医学という専門教育を学ぶ前に、学芸学部において教養教育を受けることになっていました。「自由学芸七科」とよばれるもので、「言語的三科」と「数学的四科」に分かれます。しかも両者の源流は、紀元前の古代ギリシアまでさかのぼり、当時は「優れた市民」を育成するために必要とみなされていました。つまり、どの学部に進むにしろ、自律した市民となるために必要とされた予備学問が教養教育なのです。



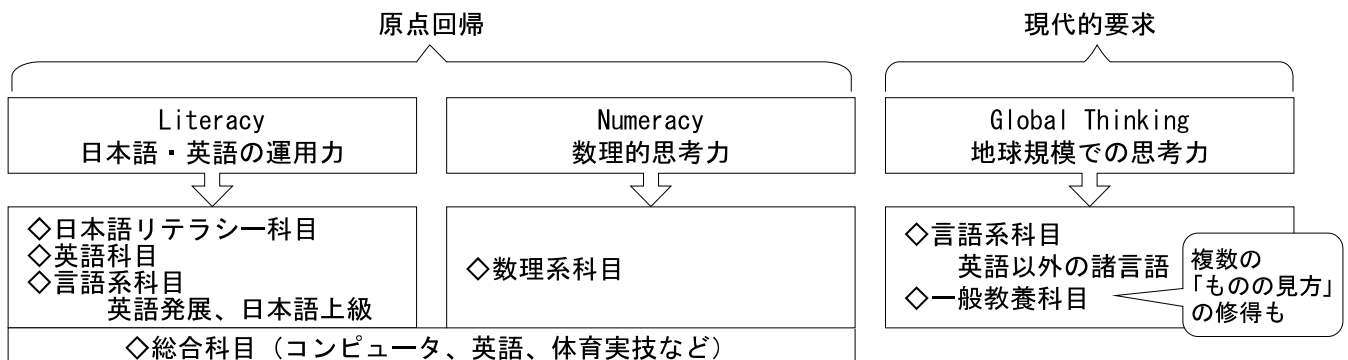
古代ギリシアの知識人たち
優れた市民の育成を目指した

ヨーロッパで大学が誕生した頃の学芸学部
自由学芸七科は専門教育の予備学問だった

とは言え、今は21世紀です。

私たちが生きる現代においては、いかなる学問を学ぶにしろ、グローバルな視点・思考力が欠かせません。学際的に諸学問を学びながら異文化理解を深めると同時に、諸言語を母語とする人たちとコミュニケーションできることが求められます。

以上のような原点回帰と現代的な要求を踏まえて、経済学部の教養教育科目では、先述した「Literacy、Numeracy、Global Thinking」という3つの柱を定めました。



教養教育科目の体系

1. 日本語リテラシー科目（2科目必修）

「日本語リテラシーⅠ」（1年次前期）では、高校から大学へスムーズに移行するための導入教育として、以下の3つの学習態度からの脱却を目指します。大学における学びの出発点と言えますが、それと同時に、社会人としてもまた欠かせない能力を少人数制の下で集中的に鍛えることになります。

- ◆ 人が話すときに、ただボーッと聞くだけ ⇒ 自ら進んでどんどんメモができる！
- ◆ 作文では思いつくままダラダラ書くだけ ⇒ きちんと筋道立った文章が書ける！
- ◆ 文章を読んでも字面を鵜呑みにするだけ ⇒ 論旨を理解し批判的に検討できる！

「日本語リテラシーⅡ」（1年次後期）では、グループ学習を通じて、組織のメンバーとしての役割を体験しながら、日本語の読む力と書く力をさらに鍛えていきます。

2. 外国語科目（英語、留学生は日本語。8科目必修）

21世紀の現在、英語は世界共通語として、ビジネス、国際協力、情報通信、科学技術などの幅広い分野で用いられています。そのため、世界中の人々とコミュニケーションをとり、意思の疎通を図ることのできる力を身に付けることが英語学習の目的となります。2年間の必修英語コースでは、以下の8科目を履修しながら、相手の英語を理解し、自分の英語で伝える練習を重ねることにより、英語運用能力の向上を目指します。

- ◆ 「General English I, II, III, IV」（グローバルなトピックを用いた統合的英語学習）
- ◆ 「Business English I, II, III, IV」（社会に出て即戦力となることを目的としたビジネス英語学習）

なお、選択英語科目は「3. 言語系科目の（1）英語発展」と「5. 教養科目の（2）総合科目」にまたがっています。各自の英語学習ニーズに合わせて、必修以外の英語科目も積極的に履修しましょう。

また、所定の単位数以上を履修すると英語副専攻修了が認められます。学生一人一人の将来ビジョンに合わせて科目を組み合わせ、それぞれにとって実りのある副専攻コースを構築することができます。

3. 言語系科目（3科目以上を〔国際学科では5科目以上を〕、自由に選択）

（1）英語発展、日本語上級

必修の日本語リテラシー科目・外国語科目で身につけた（もしくは学習中の）、聴き・読み・書き・話す力をもっとも鍛えたい人のために用意されています。各人の関心や目標に合わせて積極的に挑戦していきましょう。なお、学習動機別推奨科目は次ページを参照。

（2）中国語、ハングル、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、諸言語

今後、国際化グローバル化はますます進み、それに伴い非英語圏のことを知る必要性も増大するはずです。英文を読み収集できる、その地域に関する情報の数は限られているため、英語以外の言語の学習はとて有益と言えます。各言語には、入門から上級までのレベル分けはもちろん、文献講読科目もあります。複数の言語を学ぶこともできます。各人の興味や関心に応じた幅広い履修が可能なので、新たな言語の世界にチャレンジしてみましょ。なお、学習動機別推奨科目は次のページを参照。

4. 数理系科目（3科目以上を自由に選択）

経済学・経営学を理解するためには、当然のことながら、数学は必須です。また、社会人になってからも、数理的な思考力は大いに役立ちます。それ故、数学の学習を避けるなんて、絶対に、お勧めしません。必要になってから困ることのないように、1年前期から数学の諸科目をどんどん履修しましょう。なお、効果的な履修モデルは次々ページを参照。

5. 教養科目

（1）一般教養科目（5科目以上を自由に選択）

哲学、心理、法律、政治、地理、歴史、科学、自然、技術、健康など、多種多様な科目が用意されています。

これまで学んできた分野をさらに究めようとしても、Good！ 高校までとは異なる次元からのアプローチを知ることになるはず。Good！

また、高校まであまり学ぶことのなかった未知なる分野を履修してみるのも、Good！「できれば避けたいな…」という科目もあるでしょうが、勇気を出して新たな世界に飛び込んでみると、きっと大きな収穫があるはず。新入生の段階で、演習（ゼミナール）のように、仲間と議論するうちに学問の奥深さに触れることのできる「学問研究入門」（1年前期のみ配当）という科目もあります。目の前に広がる「豊穡な知の世界」に、さあ、飛び込んでいきましょう。

なお、学習動機別推奨科目は次々ページを参照。

（2）総合科目（コンピュータ、英語、体育等。取得単位は「自由選択」に加算）

「コンピュータ・リテラシーⅠ・Ⅱ」では、ネットを通じた資料収集、ワープロ、表計算、プレゼンテーションな

どのアプリケーションの操作など、大学でのレポート、論文作成に必要なコンピュータ技術について学びます。

また、英語科目としては、経済学や経営学の英語文献を少人数で精読する「Readings on Economics/Management I・II」などが開講されています。

それから、体育実技科目として「スポーツ科学」も用意されています。

最後に一言

教養教育は、専門教育の単なる補助科目ではありません。学んだ内容・培った能力は「一生もの」。大学生時代だけでなく、社会人生活でも、その威力を大いに発揮するはず。グローバル化が進む現代社会の中で「自律した市民」として活躍するために必要不可欠な、様々な素養を鍛えましょう。

教養教育科目 学習動機別推奨科目・履修モデル

1. 言語系科目（卒業要件は、経済学科および経営学科では6単位、国際学科では10単位。それ以上の取得単位は「自由選択」に加算。）

(1) 英語発展、日本語上級

学 習 動 機		推 奨 科 目
英語のスキルを個別に強化したい。 高度な英語力養成のためのベースを作りたい。	➡	「Grammar」「Listening」「Reading」「Writing」 「◆Language Learner Development」
英語コミュニケーション能力を高めたい。 短期留学したい。	➡	「Discussion」「English Language and Culture」 「Listening」「Oral Communication」 「World Issues」
資格を取得したい。	➡	「TOEIC Basic」「TOEIC Intermediate」「★TOEFL」
大学院進学準備をしたい。	➡	「★English for Academic Purposes」「★TOEFL」
英語圏に長期留学したい。 高度な英語力を身に付けたい。	➡	「★Advanced Discussion」「★Advanced Oral Communication」 「★English for Academic Purposes」 「★TOEFL」「★Critical Thinking」
かなり高度な日本語運用力を身に付けたい。	➡	「日本語リテラシー上級Ⅰ・Ⅱ」
高校の「古文」や「漢文」の授業だけでは分からなかった、豊かな「古典」の世界を旅してみたい。	➡	「日本古典研究」、「中国古典研究」

※◆のついた科目は「総合科目」です。

※★のついた科目には、受講の目安となる英語レベルがあります。詳細についてはシラバスを参照

(2) 中国語、ハングル、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、諸言語

学 習 動 機		推 奨 科 目
新たな言語の基礎学力をつけたい。	➡	1年～4年次：「○○語Ⅰ・Ⅱ」
「○○語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ言語の運用能力をさらに高め、その言語圏で旅行や生活をしてみたい。	➡	2年～4年次：「○○語Ⅲ・Ⅳ」
「○○語Ⅳ」までに学んだ言語の実用的な運用能力を身につけ、将来は留学やビジネスに活かしたい。	➡	2年～4年次：「○○語Ⅴ」
「○○語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ言語の新聞、雑誌、その他の文章を読み、その言語圏の実情についてさらに詳しく知りたい。	➡	2年～4年次：「○○語文献講読Ⅰ・Ⅱ」

※6つの言語は、仮に1年前期にスタートできなくても、1年後期からでも、2年次からでも、3年次からでも、はたまた4年次からでも、学び始めることができます。また、例えばヨーロッパ言語が自分に合わなかったとしても、改めて中国語やハングルを学ぶことも可能です。日本語、英語に続いて、もう1つの新たな言語の世界を少しでも知ったら、ものごとを以前よりも広い視野で見ること、間違いなし、です。せっかくの機会です。大学生のうちに、日本語と英語に続く、第3の言語にどんどんチャレンジしてみましょう！

2. 数理系科目（卒業要件は各学科とも6単位。それ以上の取得単位は「自由選択」に加算。）

学 習 動 機		効果的な履修モデル
高校で「数学Ⅱ、B」を履修していない。（商業高校出身者や留学生向け）	➡	(1) { 1年前期：「基礎数学A」または「基礎数学B」 1年後期：「基礎数学B」または「基礎数学A」 2年前期：「微積分Ⅰ」または「線形代数概論」
高校で「数学Ⅱ、B」を履修したが、数学の基礎学力に全く自信がない。復習から始めたい。（受験に数学を使わなかった学生向け）	➡	(2) { 1年前期：「基礎数学A」かつ「基礎数学B」 1年後期：「微積分Ⅰ」、「線形代数概論」から1科目以上
高校で「数学Ⅱ、B」を履修し、復習の必要はない。（数学で受験した学生向け）	➡	(3) { 1年前期：「微積分Ⅰ」、「線形代数概論」 1年後期：「微積分Ⅱ」
統計手法を身につけたい。	➡	上記(1)または(2)または(3)に加え、 1年前期または後期：「データ分析入門」 2年前期：「多変量データの分析A」 2年前期または後期：「多変量データの分析B」

※「基礎数学A」と「基礎数学B」は、どちらを先にしても構いません。

※(2)と(3)で迷った場合、「数学Ⅱ、B」の教科書の問題が解ける（または自力で思い出せる）学生は(3)を、そうでない学生は(2)を履修してください。

3. 一般教養科目（卒業要件は各学科とも10単位。それ以上の取得単位は「自由選択」に加算。）

学 習 動 機		推 奨 科 目
世の中の「ものの見方」をしっかりと身につけたい。	➡	「論理的思考」、「哲学」、「倫理学」、「科学哲学」、「教育哲学」、「教育心理学」、「心理学」、「社会学」、「法学」、「政治学」、「宗教学」、「美学」、「ファイナンシャル・リテラシー」、「キャリア・デザイン」。
自然のあり方を見つめて、視野を広げたい。	➡	「人文地理学」、「自然地理学」、「宇宙と地球」、「生態系と環境」、「生命科学」、「医療と健康」、「技術とものづくり」、「物理学」。
世界の様々な文化・思想・歴史・制度等について知りたい。	➡	「社会哲学」、「現代思想」、「国際法」、「国際関係論」、「西洋史」、「東洋史」、「中国文化論」、「イスラーム文化論」、「世界地誌」。
日本のことをもっと詳しく知りたい。	➡	「日本国憲法」、「日本政治」、「日本地誌」、「日本史（古代～近世）」、「日本史（近現代）」。